

〈分類1〉 学校教育の充実

学校教育を「ひとづくり」の基礎と位置づけ、児童・生徒が快適に学ぶことができる教育環境を整えるとともに、社会の動静や子どもたちの実態を把握し、一人ひとりの個性や可能性を最大限に生かし生きる力と夢を育む教育を目指します。

【施策】

- ・快適に学ぶことができる教育環境の整備・・・・・・・・・・P 5
- ・豊かな人間性と社会性をはぐくむ教育内容の充実・・・・・・・・P 8
- ・地域に開かれた学校の実現・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 9
- ・快適な教育基盤の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・P10
- 総括的評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・P11

【施策】

◇ 快適に学ぶことができる教育環境の整備

【主な事業】

(1) 学校施設維持管理事業

点検	概要	各学校からの要望により学校施設の改修及び修繕を行い、児童生徒が安全に教育を受けられる安全で快適な環境を整える。	
	計画	・前年度に実施した学校訪問により判明した修繕箇所や、緊急に必要な修繕料を予算措置。	
評価	実績	＜小学校＞	＜中学校＞
		<p>五戸小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二宮金次郎像修繕工事 <p>切谷内小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講堂空調設備修繕 ・小荷物専用昇降機修繕 ・キュービクル修繕 <p>上市川小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高圧気中負荷開閉器交換修繕 ・駐車場舗装修繕 ・黒板用蛍光灯本体交換 ・防災設備修繕 <p>倉石小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄関前土留防水修繕 ・体育館排煙オペレーター修繕 ・プール送水ポンプモーター交換修繕 	<p>五戸中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館支柱受金具交換修繕工事 ・受水槽給水FMバルブ交換修繕 ・防災設備修繕 <p>川内中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気工作物配線及び抵抗改善修繕 ・屋外動力分電盤ボックス等交換修繕 ・プールろ過機修繕 <p>倉石中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館ステージ幕交換修繕 ・高圧気中負荷開閉器交換修繕工事
		成果	教育委員による学校訪問を行い、各学校の要望を把握することで、修繕計画をたて、順次修繕を実施した。
	課題等	学校施設維持管理については、事業費の大きい工事の十分な予算の確保ができないために、学校からの要望に対して迅速で十分な対応ができていない状況となっているので、ある程度の規模の改修等については、年次計画を作成し、計画的な予算措置を財政当局に要望する必要がある。	

〈分類1〉 学校教育の充実

(2) 特別支援教育支援員配置事業

点検	概要	様々な障害を持つ児童生徒に対して、学校生活上の介助や学習活動の支援などを行う特別支援教育支援員を必要な学校に配置し、児童生徒の教育の充実を図る。	
	計画	・小学校4校、中学校2校に合わせて11人の支援員を配置	実績 ・五戸小学校へ3人、切谷内小学校1人、上市川小学校2人、倉石小学校2人、五戸中学校2人、川内中学校2人の計12人の支援員を配置した。
評価	成果	特別支援教育支援員は当初計画より1人増員配置し、ほぼ支援員を必要とする学校へは配置され、教員の負担を軽減することができた。以前より障害のある児童生徒が普通学級で学習する時など本人及び周りの生徒も落ち着いて学習することができるようになった。	
	課題等	各学校から複数の特別支援教育支援員配置の要望があり人材確保が難しい	

〈分類1〉 学校教育の充実

(3) 学校支援地域本部事業

点検	概要	学校の要望に応じて、教育活動を地域住民のボランティア活動で支援する体制をつくり、学校で手が回らない部分を手伝うことで教育環境の整備や教員・地域住民が子どもたちと向き合う時間を増やし、地域の教育力の向上を図る。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の学校2校に学校支援センターを設置する。 ・学校支援コーディネーターを5人配置し、学校とボランティアの調整に当たる。 ・ボランティア活動日数 343日 	実績
評価	成果	<p>地域住民のボランティアにより、学校の教育環境の向上と教師が児童生徒に向き合う時間を増やすことができた。</p> <p>図書室及び図書の整備により、読書に関心を持つ児童・生徒が増加した。</p> <p>学校支援コーディネーター・ボランティアが活動するようになり、学校が保護者や地域住民が行きやすい場となってきた。</p> <p>平成27年度からは、同様の事業を町単独で行う予定となっている。</p>	
	課題等	<p>コーディネーターやボランティアの方々が活動していること把握していない学校の教師や地域の住民が存在していたため、町の広報紙等に様子を掲載することが必要と感じた。</p> <p>P T A活動等で学校支援に取り組んでいる場合もあるので、学校側と連携を図り事業を遂行する必要がある。</p>	

【施策】

◇ 豊かな人間性と社会性をはぐくむ教育内容の充実

【主な事業】

(1) 語学指導外国青年招致事業

点 検	概 要	国の語学指導外国青年招致事業（JETプログラム）を活用して、語学指導助手（ALT）となる外国青年を招致し、小・中学校で英語授業の補助をしてもらうことで英語教育の充実を図る。また、国際理解教育の補助をすることで諸外国との相互理解を増進する。	
	計 画	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・人数 2人 ・配置校 7校 ・学校教育以外での英語指導の実施
評 価	成 果	外国青年によるALTの配置により、小中学生が生の英語に触れることで英語教育の充実を図ることができた。 また、ALTが公民館講座の英語講師として講座を行うことで、町民との交流も図られた。	
	課 題 等	平成27年度からALTの配置人数が3人となるため、ALTの一層効果的な活用の検討が必要である。	

【施策】

◇ 地域に開かれた学校の実現

【主な事業】

(1) 学校評議員事業

点 検	概 要	学校運営に関し、保護者や地域住民の意見を反映するとともに、協力を得ながら子どもたちの健やかな成長を担うことができる学校運営を行うため、各学校に5名以内の学校評議員を置き、学校運営に参画してもらう。		
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校評議員を委嘱 ・学校評議員会議開催回数 21回 ・学校評議員の意見の反映数 21件 	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校に学校から推薦された3～5名の方を学校評議員として委嘱した。 ・学校評議員会議開催回数 13回 ・学校評議員の意見の反映数 15件
評 価	成 果	各学校では、評議員から意見を聴取する会議を1～3回開催し、出された意見についても各学校で概ね2件は学校運営に反映しており、地域に開かれた学校を目指す運営が行われている。		
	課 題 等	学校評議員から出された意見により改善されたことなどを、各学校から学区住民に知らせ、学校が地域に開かれていることを分かってもらうことが重要であるため、地区回覧等によりその周知を行う必要がある。		

【施策】

◇ 快適な教育基盤の充実

【主な事業】

(1) 奨学資金貸付事業

点検	概要	五戸町出身の学生及び生徒で学習能力があるにもかかわらず、経済的理由により就学が困難な者に対して、学資を無利子で貸与して人材の育成を図る。償還期間は、1年据置後から貸与期間の2倍の期間以内とする。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・新規貸与者数 高校生 3人 大学生等 25人 ・償還金償還率（現年度分） 95% 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規貸与者数 高校生 2人 大学生等 18人 ・償還金償還率（現年度分） 98.5%
評価	成果	経済的理由により就学が困難な者24名に対し、奨学資金の貸付けによる支援を実施し、人材育成を図ることができた。	
	課題等	奨学資金償還金の未納者が有り、未納額は、全体では減少傾向となっているものの長期間にわたって未納の人もいる。そのため、未納者と連絡を密にとりながら、未納者の経済状況などの把握をして返済に向けた取組みを継続的にを行い、未納額の減少に努めることが必要である。	

(2) スクールバス事業

点検	概要	学校統合などにより、遠方から通学する児童生徒の通学手段として、学校と該当地区の間に通学のためのスクールバスを業者委託により運行する。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス運行学校 五戸小学校、倉石小学校、 五戸中学校、倉石中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス運行学校 五戸小学校、倉石小学校、 五戸中学校、倉石中学校
評価	成果	スクールバスを計画のとおり運行したことにより、遠隔地の児童生徒が円滑に通学することができた。	
	課題等	スクールバスの乗車時間が長いとの意見が一部にあることから、よりよい運行経路について検討を行う必要がある。	

○ 総括的評価・・・学校教育の充実

◆ **快適に学ぶことができる教育環境の整備**としては、学校施設維持管理については、教育委員による学校訪問等を行い、各学校の要望を把握し計画をたて順次修繕を実施したが、事業費の大きい修繕については、十分な予算の確保ができないために、学校からの要望に対し対応ができていない状況となっている。大規模改修等については、予算措置を継続的に財政当局に要望を行い、理解を求めていく必要がある。

平成25年度の倉石小学校に続き、五戸小学校への統合によりコミュニティバスを利用して通学することとなった児童に、乗降間違いや事故がないよう十分な指導を行った結果、大きなトラブルがなく通学することが出来たことは関係各位の取組の成果である。今後はトラブルの未然防止に加え一般住民も利用するバスであるため、車内のマナー指導についても十分に注意を払う必要がある。

特別支援教育支援員については、支援員を必要とする学校に配置がなされ、教員の負担を軽減することができるとともに、障害のある児童生徒が以前より普通学級で学習する時など、本人及び周りの生徒も落ち着いて学習することができるようになった。しかしながら、配置がなされたものの複数の支援員を要望している学校には、人材や財源確保などの問題により十分に対応出来ていない面もあるため、県関係部局や町財政部局との情報交換を行いながら進めていく必要がある。

学校支援地域本部事業は、教師の負担軽減や地域教育力向上に効果をもたらすことから、未実施校へのPRを行い、多くの学校で実施していくことが必要である。

◆ **豊かな人間性と社会性をはぐくむ教育内容の充実**としては、外国青年のALTの活用で、五戸町の子どもたちの国際感覚の育成が図られていることから、引き続き事業を推進していく必要があるが、今後3名体制となることから、より効果的な活用について検討を要する。

◆ **地域に開かれた学校の実現及び快適な境域基盤の充実**については、各学校で評議委員から意見を聴取する会議を1～3回開催し、意見を学校運営に反映しており、地域に開かれた学校を目指す運営が行われている。

◆ **快適な教育基盤の充実**としては、奨学資金の償還金の滞納対策に力を入れる必要がある。また、スクールバス事業については、学校統合により拡大運行され、大きな事故等は起きていないが、今まで以上に安全に留意した運営をしていく必要がある。また、運行時間の変更調整については、事前の情報交換を密にし効率的な配車を行うことが大切である。

〈分類2〉 社会教育の振興

生涯学習社会形成に向け、町民一人ひとりの学習ニーズに対応できる学習環境の整備を図るとともに、「主体的に社会参加する町民」を目指し、総合的な社会教育の推進に努めます。

【施策】

- ・生涯学習に資する人材の育成・・・・・・・・・・・・・・・・P13
- ・多様なニーズに対応し得る生涯学習の体制づくり・・・・・・・・P14
- ・利用しやすい社会教育施設の整備・・・・・・・・・・・・・・・・P16
- 総括的評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P17

【施策】

◇ 生涯学習に資する人材の育成

【主な事業】

(1) ボランティア活動支援事業

点 検	概 要	町内の各分野における特技を持った人材を生かし、町民の社会参加の場を提供するとともに、地域ぐるみの教育を目指した「学校等支援ボランティアバンク」にボランティアで活動する人をリストに登録し、学校等からの求めに応じて人材を紹介する。 登録の更新は、2年ごとに行う。		
	計 画	・登録人数 50人 ・登録件数 23件 ・活動件数 2か所	実 績	・登録人数 32人 ・登録件数 18件 ・活動件数 なし
評 価	成 果	活動実績はなかったが、リストアップしておくことで地域の人材を把握しておくことができた。		
	課 題 等	活動をする新規の登録者が少ないため、年々登録者の高齢化に伴い登録人数が減少している。また、ボランティアの依頼が少ないことによって登録者のモチベーションが下がり、登録の更新をしない場合もあり、利用件数を増やすために他の事業との連携や活用が必要である。		

【施策】

◇ 多様なニーズに対応し得る生涯学習の体制づくり

【主な事業】

(1) 町民大学講座事業

点検	概要	生涯学習の一環として町民へ学習機会を提供することを目的に、年間を通じて各分野の講師を招いて講演を行う。また、施設見学などの移動講座も行う。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・開催講座数 10講座 ・開催回数 11回 ・受講者数 延べ500人 	実績 <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数 10講座 ・開催回数 11回 ・受講者数 延べ403人
評価	成果	講座では、受講生に対し、多様な分野からの講師による講義や、博物館等の様々な施設を見学することで学習の機会を提供することができた。	
	課題等	講座をより多くの方に受講してもらうため、町民の生涯学習に対するニーズの把握や、町民への広報など検討する必要がある。また、移動講座を行う際は、その直前に開いた講座の内容に関係のある場所を見学し、さらに知識を深める機会とすることを考えている。	

(2) 公民館講座事業

点検	概要	町民が生涯を通して生きがいのある充実した生活を送ることができるよう、公民館において町民一人ひとりの学習ニーズに対応する多種多様な講座で、主に受講者が作成などを行う内容で学びの場を提供する。 講座は、年間を通して行う普通講座、2～3か月の期間で行う短期講座、川内・浅田・倉石の3地区の施設に出向いて行う移動講座がある。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・参加延べ人数 普通講座 2,026人 短期講座 160人 移動講座 135人 	実績 <ul style="list-style-type: none"> ・参加延べ人数 普通講座 1,130人 (パッチワーク、ハンドクラフト、絵手紙等9講座) 短期講座 114人 (酒まんじゅう・和裁「袖なしちゃんちゃんこ作り」・使ってみようスマートフォン・豆しとぎの4講座) 移動講座 93人 (エコクラフト「石畳編みのかごバッグ作り」 3会場で講座)

評価	成果	<p>公民館講座は、幅広い年代の町民が受講しており、普通・短期・移動の3種類の多様な講座を開講することや内容の充実を図りながら、進めていくことによって利用者が楽しく住民と交流する場を提供できた。また受講者のニーズに応えることができた。</p> <p>特に短期講座に希望者が多く毎回定員に達した。</p> <p>英会話講座では、「コミュニケーションが楽しく勉強になった」、ハンドクラフトでは「毎回作るのが楽しみです」、エアロビクスでは「日頃運動不足の私にはとてもいい講座でした」などの感想があり、次回も同じ講師との要望も多かった。</p>
	課題等	<p>普通講座の新規受講者の加入を促進するため、町民の学習ニーズを調査し新たな講座の開講特に日中の講座を希望されている方もあり、検討する必要がある。</p>

(3) 公民館情報紙発行业

点検	概要	<p>公民館事業への理解と関心を深めるために、公民館事業の情報紙「おんこ」を作成し、自治会を通して毎戸配付や回覧をすることで、公民館の利用者数の増加を目指す。</p>	
	計画	<p>・「おんこ」の発行 ・年間利用者数 60,000人 ・年間利用件数 3,000件</p>	実績
評価	成果	<p>公民館情報紙「おんこ」を発行することで、公民館事業等を住民へ効果的にお知らせすることができ、また公民館利用者の利便性を高めることができた。</p> <p>町民の中には次回の講座等を楽しみに「公民館情報紙「おんこ」が回覧されるのを待っているという方もあった。</p> <p>平成25年度から町のホームページにも公民館情報紙「おんこ」を掲載することによって講座に申し込まれた方もあり、効果は少しずつあると思われる。</p>	
	課題等	<p>公民館情報紙「おんこ」と共に、町のホームページでの情報提供も続けていくが、現状では、紙面以外での情報入手が困難な状況にある方のためには依然として情報紙としての役割も大きい。</p> <p>今後とも見やすい、解りやすい公民館情報紙をめざし、情報提供していく必要がある。</p>	

【施策】

◇ 利用しやすい社会教育施設の整備

【主な事業】

(1) 移動図書館事業

点 検	概 要	図書館から遠隔地のため、図書館に行って利用しにくい地域の人たちのために、自動車に図書を積み込んで各地区と小学校を巡回して図書の貸し出しをする。		
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・地域巡回貸出冊数 1, 200冊 ・学校巡回貸出冊数 4, 500冊 	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回5箇所での地域巡回及び小学校3校での巡回を実施した。 ・地域巡回貸出冊数 1, 004冊 ・学校巡回貸出冊数 3, 474冊
評 価	成 果	<p>移動図書館により、遠隔地域への図書貸出サービスが展開できた。また、地域を定期的に巡回することで、読書の推進が図られ、利用者の希望に応じた貸出をすることができた。</p> <p>一方で、地域巡回、学校巡回とも、昨年度の貸出冊数は計画より大幅に下回った。</p>		
	課 題 等	<p>利用者の拡大が難しい現状は以前と変わらない。今後は、地域巡回の利便性を周知するとともに、より利用しやすくするための巡回場所や日時等の見直しが必要である。</p> <p>また学校巡回では、児童数の減少傾向にある中で、より多くの子どもたちに利用してもらうよう、学校と連携した取り組みを検討する必要がある。</p> <p>さらに、現在行っていない五戸小学校への巡回を実施するかどうかも検討の必要がある。(現在五戸小学校へは、団体貸出を実施中。)</p>		

○ 総括的評価・・・・・・・・社会教育の振興

- ◆ **生涯学習に資する人材の育成**としては、町内の各分野における特技を持った人材を登録し、「学校等支援ボランティアバンク」として学校等からの求めに応じて人材を紹介するボランティア活動支援事業を実施しているが、ボランティアの依頼が無い状況にある。その要因の一つとしては、学校支援地域本部事業の活用や、学校独自ルートによる人材確保により活動を実施していることがあげられる。本事業は継続を維持しながら、更に多くの人材登録と活用に向けたPRの工夫する必要がある。
- ◆ **多様なニーズに対応し得る生涯学習の体制づくり**としては、生涯学習の拠点である公民館を中心に、町民大学講座、公民館講座を開催しており、あわせて延べ1,700人以上の町民が受講している。今後は、一部の講座の時間帯を夜間や休日等に設定するなど、新規階層に向けた企画や、聴講したくても会場での受講が難しい町民のために、町ケーブルテレビを活用した自宅での聴講について検討することも必要である。
- ◆ **利用しやすい社会教育施設の整備**としては、図書館に訪れることが難しい町民でも図書が借りられるように車で移動図書館事業として巡回している。地域巡回では、昨年度の貸出冊数はほぼ計画通りとなっているが、利用者の拡大が難しい現状であり、今後は利便性を周知するとともに、より利用しやすくするための巡回場所や日時等の見直しが必要といえる。学校巡回では、児童数の減少傾向にある中で、より多くの子どもたちに利用してもらうよう、学校と連携した取り組みを検討する必要がある。

〈分類3〉 スポーツの振興

現在あるスポーツ施設の利便性を高めるとともに、町民のニーズを把握し、多様で参加しやすいイベントの実施や老若男女の誰もが生涯を通じて気軽にスポーツを楽しみ、活力と感動を生み出す環境づくりを進めます。

【施策】

- ・ 利用しやすいスポーツ施設の整備・・・・・・・・・・P19
- ・ 誰もが気軽に参加できるスポーツ環境づくり・・・・・・・・P21
- ・ 町全体で取り組むスポーツ振興・・・・・・・・・・P23
- 総括的評価・・・・・・・・・・P26

【施策】

◇ 利用しやすいスポーツ施設の整備

【主な事業】

(1) スポーツ施設の管理事業

	<p>概要</p> <p>ひばり野公園（陸上競技場、野球場、サッカー場、テニスコート、プール）、屋内トレーニングセンター、スポーツ交流センター及び倉石スポーツセンターの施設を町民のスポーツ活動の場として提供しており、町民が利用しやすい施設とするために、施設管理を指定管理者に委託している。また、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の不良箇所の修繕を行う。</p>		
<p>点検</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひばり野公園陸上競技場管理棟シャワー室復旧工事 ・ひばり野公園陸上競技場管理用耐震診断業務委託 ・ひばり野公園サンハウス外部木部塗装工事 ・ひばり野公園ローラー滑り台修繕工事 ・屋内トレーニングセンタートレーニング室エアコン設置工事 倉石スポーツセンター防水等工事設計業務委託 ・施設利用者数 <p>ひばり野公園 53,000 人</p> <p>屋内トレーニングセンター 37,000 人</p> <p>スポーツ交流センター 9,000 人</p> <p>倉石スポーツセンター 11,000 人</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひばり野公園陸上競技場管理棟シャワー室復旧工事 ・ひばり野公園陸上競技場管理用耐震診断業務委託 ・ひばり野公園サンハウス外部木部塗装工事 ・ひばり野公園ローラー滑り台修繕工事 ・屋内トレーニングセンタートレーニング室エアコン設置工事 倉石スポーツセンター防水等工事設計業務委託 ・施設利用者数 <p>ひばり野公園 74,484 人</p> <p>屋内トレーニングセンター 38,324 人</p> <p>スポーツ交流センター 9,393 人</p> <p>倉石スポーツセンター 6,923 人</p> </td> </tr> </table>	<p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひばり野公園陸上競技場管理棟シャワー室復旧工事 ・ひばり野公園陸上競技場管理用耐震診断業務委託 ・ひばり野公園サンハウス外部木部塗装工事 ・ひばり野公園ローラー滑り台修繕工事 ・屋内トレーニングセンタートレーニング室エアコン設置工事 倉石スポーツセンター防水等工事設計業務委託 ・施設利用者数 <p>ひばり野公園 53,000 人</p> <p>屋内トレーニングセンター 37,000 人</p> <p>スポーツ交流センター 9,000 人</p> <p>倉石スポーツセンター 11,000 人</p>	<p>実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひばり野公園陸上競技場管理棟シャワー室復旧工事 ・ひばり野公園陸上競技場管理用耐震診断業務委託 ・ひばり野公園サンハウス外部木部塗装工事 ・ひばり野公園ローラー滑り台修繕工事 ・屋内トレーニングセンタートレーニング室エアコン設置工事 倉石スポーツセンター防水等工事設計業務委託 ・施設利用者数 <p>ひばり野公園 74,484 人</p> <p>屋内トレーニングセンター 38,324 人</p> <p>スポーツ交流センター 9,393 人</p> <p>倉石スポーツセンター 6,923 人</p>
<p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひばり野公園陸上競技場管理棟シャワー室復旧工事 ・ひばり野公園陸上競技場管理用耐震診断業務委託 ・ひばり野公園サンハウス外部木部塗装工事 ・ひばり野公園ローラー滑り台修繕工事 ・屋内トレーニングセンタートレーニング室エアコン設置工事 倉石スポーツセンター防水等工事設計業務委託 ・施設利用者数 <p>ひばり野公園 53,000 人</p> <p>屋内トレーニングセンター 37,000 人</p> <p>スポーツ交流センター 9,000 人</p> <p>倉石スポーツセンター 11,000 人</p>	<p>実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひばり野公園陸上競技場管理棟シャワー室復旧工事 ・ひばり野公園陸上競技場管理用耐震診断業務委託 ・ひばり野公園サンハウス外部木部塗装工事 ・ひばり野公園ローラー滑り台修繕工事 ・屋内トレーニングセンタートレーニング室エアコン設置工事 倉石スポーツセンター防水等工事設計業務委託 ・施設利用者数 <p>ひばり野公園 74,484 人</p> <p>屋内トレーニングセンター 38,324 人</p> <p>スポーツ交流センター 9,393 人</p> <p>倉石スポーツセンター 6,923 人</p>		
<p>評価</p>	<p>成果</p> <p>ひばり野公園、屋内トレーニングセンター、スポーツ交流センター及び倉石スポーツセンターは、(公財)五戸町スポーツ振興公社と新たに指定管理委託(平成26年度～30年度)をすることで、経費の節減ときめ細かな施設の管理及び利用者の利便性の向上を図ることができた。</p> <p>また、予定した工事や耐震診断業務等、放送機器の備品購入を実施、サッカー場のJFA公認更新を図るなど施設の良好な管理ができた。</p> <p>施設利用者数については、倉石スポセン以外は計画通りであった。</p>		

	課題等	<p>ひばり野運動公園は開園から30年以上が経過し、各施設や設備の老朽化が進み大規模改修の必要な箇所がある。特にひばり野公園陸上競技場管理棟、倉石スポーツセンターは大規模な改修のため、財政と協議し計画的な予算措置が必要である。</p> <p>その他施設設備の突発的な故障にも対処が必要となっている。</p> <p>また、町のイベントや各種競技大会が開催され多くの来場者に対し、駐車場の確保が課題となっている。</p>
--	-----	--

【施策】

◇ 誰もが気軽に参加できるスポーツ環境づくり

【主な事業】

(1) 町民登山・歩こう会事業

点 検	概 要	町民を対象にした県内及び隣県での日帰り登山及びハイキングをすることで、自然と触れ合いながら町民の健康増進とスポーツへ取り組むきっかけとしてもらう。		
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・登山参加者 50人 ・歩こう会参加者 100人 	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・登山参加者 (八甲田 大岳) 42人 ・歩こう会参加者 (抱返り溪谷) 62人
評 価	成 果	<p>町民登山、歩こう会とも、計画の約半数程度の参加となった。個人では気軽にはできない登山やトレッキングに参加することで町民の健康増進が図られた。</p> <p>歩こう会では当初予定していた場所が災害で通行止めのため変更した。</p> <p>町民登山・歩こう会とも参加者からは、町民同士の親睦も図られることから、参加してよかったという声が多く聞かれた。</p>		
	課 題 等	<p>町民登山、歩こう会とも参加者数の減少と高齢者が多くなっていることからより参加しやすい内容にするなどの検討が必要である。</p> <p>参加者からは毎年継続して開催してほしいとの声が多い。</p> <p>昨年の御嶽山噴火や近年の火山活動の活発化により、開催場所を十分に検討し安全が確保されなければならない。</p> <p>町委託バス等の利用制限も考慮し、県外でなくても町内の豊かな自然を活用して、開催時期や開催数等の内容の変更を検討する必要がある。</p>		

(2) スポーツ推進委員事業

点検	概要	町のスポーツの推進のため、熱意と能力のある住民をスポーツ推進委員として町教育委員会が委嘱し、社会体育事業の企画・運営をしてもらう。また、その他の団体のスポーツ行事・事業に協力及び指導助言をしてもらう。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 町民運動会・登山・歩こう会の企画運営への参画 各種スポーツ大会への協力 委員の行事等への延参加者数 80人 	実績 <ul style="list-style-type: none"> スポーツ推進員は、町民運動会・登山・歩こう会の企画運営に参画した。 町老人スポーツ大会、郡身体障害者スポーツ大会への協力をした。 委員の行事等への延参加者数 89人
評価	成果	スポーツ推進委員は、専門的な知識と行動力で町の事業に参画するなどスポーツの振興に寄与した。	
	課題等	<p>スポーツ推進委員は、事業参加者の安全、けが・発病者の対処等（救急措置、心肺蘇生、AED講習会など）を万全にできるよう、専門的知識、技術の向上が必要であるため、県などで開催する研修会、講習会等により多くのスポーツ推進委員に参加してもらえるようにする必要がある。</p> <p>スポーツ推進委員定数に対して、現在欠員が生じている。委員の高齢化も進んでいるため、世代交代も視野に入れながら欠員を補充する必要がある。</p>	

(3) 生涯スポーツ振興事業等委託事業

点検	概要	「町民一人1スポーツ」を奨励することで、心身ともに健康で豊かな生活を送るために生涯スポーツを推進し、誰もが気軽に参加できる各種スポーツ大会や運動教室の実施についての企画、運営を（財）五戸町スポーツ振興公社に委託している。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 各種スポーツ大会及び教室への参加者数 3,300人 開催スポーツ大会数 9回 開催教室数 4回 各種講習会・支援事業 6回 	実績 <ul style="list-style-type: none"> 各種スポーツ大会及び教室への参加者数 3,523人 開催スポーツ大会数 9回 開催教室数 5回 各種講習会・支援事業 4回
評価	成果	<p>生涯スポーツ振興事業等の委託では、行政では手が回らない部分を委託することで、多彩な大会等が実施され、多数の町民がスポーツに親しむことができた。</p> <p>高齢者を対象とした健康体操教室を開催し多数の参加者があり好評であった。</p> <p>新たにスポーツ指導者育成事業としてスポーツ安全とスポーツメンタルトレーニングの講習会を開催し好評であった。</p>	
	課題等	高齢者のレクリエーションや各種教室の参加者はほとんどが女性であり成果も上がっているが、今後は男性を対象とした事業も実施し参加を促進し健康増進を図ることが必要である。	

【施策】

◇ 町全体で取り組むスポーツ振興

【主な事業】

(1) 県民駅伝競走大会五戸町実行委員会事業

点 検	概 要	毎年9月第1日曜日に県下全市町村が参加して開催される県民駅伝競走大会に参加するために、町実行委員会を組織し運営費として交付金を交付するとともに、事務局を担当し運営を支援する。	
	計 画	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の実施内容 選手選考、練習スケジュールの作成と実施、試走会、大会当日の選手サポート ・練習会等回数 40回 ・練習会参加者数 30人
評 価	成 果	<p>実行委員は、陸上の知識のある人材が長年メンバーとなっていることから、通年での練習を行うなど継続的に大会に向けた取り組みができた。</p> <p>中学生、高校生の大会に向けての姿勢は他の模範となり青少年の健全育成に寄与した。</p>	
	課 題 等	<p>新たに実行委員に加わる人材が少ないため、町陸上競技協会と協力して人材の育成や勧誘が必要である。</p>	

(2) スポーツ少年団本部事業

点 検	概 要	スポーツを通じて少年・少女の心身を鍛錬するために、町内のスポーツ少年団を育成指導する、五戸町スポーツ少年団本部に運営費及び事業費に対する補助金を交付するとともに、事務局を担当し運営を支援する。	
	計 画	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の交付 ・登録指導者団員数 380人 ・各種大会参加延べ人数370人
評 価	成 果	<p>スポーツ少年団本部に加入している単位のスポーツ少年団は、計画の人数を上回り、町内での活発なスポーツ活動をすることができた。</p>	
	課 題 等	<p>スポーツ少年団本部は、事業を円滑に進め、更なる発展をするために、役員改選の際に指導者同士だけでも参加する交流会を開催し、情報交換をもちながら運営及び事業についての見直しの必要がある。</p>	

	<p>また、団員減少により単位団同士の統合も考えられるが、違うタイプの選手と合同で練習できる機会でもあるため、子どもたちの技術の進歩を期待できる。</p>
--	---

(3) スポーツクラブ育成事業

点 検	概要	<p>幼児から一般まで幅広い年齢層で、多様な競技を選択できるように地域に根ざした、総合型地域スポーツクラブの育成と、スポーツを通じた町の活性化を目指し、スポーツクラブを運営している（公財）五戸町スポーツ振興公社へ、スポーツクラブ強化事業、指導者育成事業、スポーツ教室開催事業分として補助金を交付する。</p> <p>・スポーツクラブは、サッカー、野球、バスケットボール、ソフトテニス、陸上の5種目となっているが、陸上は、会員がいないため、休止状態となっている。</p>	
	計画	<p>・補助金の交付</p> <p>・クラブ強化事業 13回</p> <p>・指導者育成事業 2回</p> <p>・スポーツ教室・イベント事業 7回</p> <p>・広報活動 2回</p>	実績
評 価	成果	<p>スポーツクラブ育成事業は、運営組織の（公財）五戸町スポーツ振興公社に町が補助金を交付することで、スポーツ振興公社がクラブ強化事業、指導者育成事業、スポーツ教室開催及びイベント事業、広報活動の4事業を展開し、ほぼ計画どおりの実績となった。中でもスポーツ教室開催等では、新規事業が好評であったため今後も継続して開催していきたい。</p>	
	課題等	<p>スポーツクラブは、陸上競技クラブの会員確保と現クラブ員や指導者の増員対策や事業の充実と拡大を図っていくことが必要である。</p> <p>また、少子化によりスポーツ少年団との関わりについて連携調整が必要となってくると思われる。</p>	

〈分類3〉 スポーツの振興

(4) スポーツ大会出場祝金事業

点検	概要	小・中学生のスポーツ競技力の向上と支援を目的に、予選を経て東北大会及び全国大会に出場する小・中学生の保護者に対し、出場に際する負担を軽減するため、東北大会出場者へは10,000円、全国大会出場者へは20,000円（合わせた限度額は20,000円）祝い金を支給する。		
	計画	・東北大会 12人 ・全国大会 0人	実績	・東北大会 13人 ・全国大会 0人
評価	成果	出場祝金を支給することで、子どもたちが努力して勝ち取った、上位の大会へ出場させるための保護者の負担を軽減することができた。		
	課題等	出場祝金は、団体競技の場合には支給する人数が多く当初予算では把握が難しく補正予算対応となることから、申請を受けてから支給日まで日数がかかる場合が多い。早期に支給できるよう予算を前年度の実績より数人分多く計上できるようにする必要がある。		

(5) 町民運動会事業

点検	概要	町民の健康増進や親睦を図るために、全町内で自治会または地区ごとにチームを作り、子どもから老人までが参加できる競技で1日楽しむ、全町をあげたスポーツイベントとなっている。		
	計画	・参加チーム数 14チーム ・延参加選手数 1,600人	実績	・参加チーム数 14チーム（13の自治会と地区及び三沢基地アメリカ海軍の全14チームが参加 ・延参加選手数 1,600人
評価	成果	46回目となる町民運動会は、町内の全地区が参加し、スポーツを通じて地域の結団と親睦を図ることができた。 三沢基地所属のアメリカ海軍チームを特別招待することで、国際交流の推進が図られた。		
	課題等	近年は、参加者の減少により選手の確保が難しくなっているチームが多くなっている。現在の運動会形式で継続するとすれば、開催時間、競技種目の内容、競技数等を少しでも町民が参加しやすいように検討する必要がある。		

○ 総合的評価・・・スポーツの振興

◆ **利用しやすいスポーツ施設の整備**としては、本町のスポーツ活動は、ひばり野公園とその関連施設及び倉石スポーツセンターを拠点としており、これらをあわせて年間に約129,000人が施設を利用し、比較的利用しやすい施設となっているのではないかと考えられる。さらに、天然芝と人工芝のサッカーグラウンド2面を有し、五戸ドームを含め、県内でも有数の施設を町民が気軽に利用できる環境となっている。一方で、様々な施設の老朽化による維持管理費の増大という問題を抱えており、計画的な管理が必要となっている状況にある。

◆ **誰もが気軽に参加できるスポーツの環境づくり**としては、町民登山や歩こう会などの教育委員会が主催する事業は、スポーツ推進委員の協力で初めての人や一人だけでも楽しく参加できる体制となっており、健康志向の高まりから人気のある事業となっている。この事業を更に多くの町民が参加しやすいようにするため、県外でなくても町内の豊かな自然を活用し、年に複数回の開催にするなど内容の変更も検討する必要がある。また、例年多くの参加者となっているが、参加者によるサークルなどの組織結成が成されやすい仕組みを検討する必要がある。また、委託事業の生涯スポーツ振興事業は、高齢者のレクリエーションや各種教室の参加者はほとんどが女性であり成果も上がっているが、今後は男性を対象とした事業も実施し参加を促進し健康増進を図ることが必要である。

◆ **町全体で取り組むスポーツ振興**としては、各方面のスポーツに取り組む町民に対して、様々な形で支援を行っているが、マンネリ化し裾野の広がりにつなげていないものもあり、それぞれの事業について目的を踏まえた検証が必要である。

〈分類4〉 地域が主体となるひとづくりの推進

地域コミュニティ内の連帯や、家庭・学校との連携を深め、子どもを取り巻く社会が一体となつての「ひとづくり」を目指します。

【施策】

- ・地域コミュニティの強化による地域教育力の向上・・・P28
- ・町民の社会参加機会の拡大・・・P29
- 総括的評価・・・P30

〈分類4〉 地域が主体となる人づくりの推進

【施策】

◇ 地域コミュニティの強化による地域教育力の向上

【主な事業】

(1) 放課後子ども教室推進事業

点 検	概 要	<p>子どもたちの安全な居場所が少なくなっていることから、小学生が放課後や週末等に町立公民館を利用して地域住民の参画を得て、子どもたちにとって安全な活動拠点をつくり、スポーツや文化活動を行いながら地域住民との交流を通じて心豊かでたくましい子どもたちを育む環境を作るために「子どもあそびの広場」を開設する。広場は、毎週水曜日と金曜日の放課後及び概ね月1回土・日曜日に町立公民館等で開催する。</p>	
	計 画	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 申込児童数 33 名。 ・ 日数開催は平日 87 日、土曜日 8 日、計 95 日。 ・ 放課後子どもプラン運営委員会開催 2 回
評 価	成 果	<p>放課後の時間を利用し、年齢の異なる子どもたちが一緒に工作、料理、農作業、アウトドア体験をするなど、地域の方々の協力により、様々な体験をすることができた。参加者の保護者からも好評を得ている。</p>	
	課 題 等	<p>次年度からは、国の方策により、当事業と児童クラブとを学校敷地内で実施することを目指す活動計画の策定が補助要項として定められている。今後、スタッフ、学校と協議して取り組む必要がある。</p> <p>スタッフの新たな人材の確保に苦慮しており、ここ何年かは同じ顔ぶれである。それに伴い企画のマンネリ化も感じられる。今後も継続していくには、これまでの取り組みを見直し新たな活動を検討していく時期に来ている。</p>	

〈分類4〉 地域が主体となる人づくりの推進

【施策】

◇ 町民の社会参加機会の拡大

【主な事業】

(1) 成人式事業

点検	概要	二十歳になる新成人の町民を対象に式典と祝賀会を行う。 式典と祝賀会の企画運営は、新成人の人たちが自ら実行委員会を組織して行う。		
	計画	・新成人の参加率 70%	実績	・新成人対象者212人中135人が参加(63.6%) ・内容は前年と同じ。
評価	成果	町の行事を新成人による運営をすることで、新成人が地域との係わりを持つきっかけとなった。		
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・充実した企画・運営をするため、実行委員会を組織する時期を早める。現在は10月～11月に組織。 ・県外在住の新成人が増えているのもあり実行委員を募集することに苦慮。成人以外の実行委員も視野に入れる必要あり。 ・成人だけで完結するのではなく、地域を巻き込んだ企画を行う必要がある。そうすることにより、若者と地域の接点が生まれ今後の地域の活性化にもつながる。 		

(2) 文化賞・スポーツ賞事業

点検	概要	町の芸術文化の分野において、優れた創作活動を行っている個人または団体に対し「文化功労賞、文化賞、文化奨励賞」を、また町の体育・スポーツの振興発展への功績及びスポーツ大会において優秀な成績を収めた個人または団体に対し「スポーツ功労賞、スポーツ賞、スポーツ奨励賞」を授与する。		
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・文化功労賞 2人 ・文化賞 25人 ・文化奨励賞 50人 ・スポーツ功労賞 2人 ・スポーツ賞 25人 ・スポーツ奨励賞 50人 	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・文化功労賞 1団体と2人 ・文化賞 5人 ・文化奨励賞 23人 ・スポーツ功労賞 2人 ・スポーツ賞 32人 ・スポーツ奨励賞 13人
評価	成果	文化賞・スポーツ賞は、毎年4月に開催する五戸町教育大会で表彰し、その内容が町の広報紙に掲載されることで、町民に広く活躍を知らせることができた。		
	課題等	昨年度の評価にもあったが団体戦で収めた成績に対して、個人1人1人に賞状を作成し表彰するのは適切ではないと考えた。賞状に個人名のみ記載され団体名が記載されていないのが現状である。規則の変更など、是正する必要性を感じている。		

〈分類4〉 地域が主体となる人づくりの推進

○ 総括的評価・・・地域が主体となる人づくりの推進

◆ **地域コミュニティの強化による地域教育力の向上**として、放課後子ども教室推進事業を実施している。これは、放課後の時間を利用し、年齢の異なる子どもたちが一緒に工作、料理、農作業、アウトドア体験を地域の方々の協力により様々な体験をすることができるため、参加者の保護者からも好評を得ている事業であるが、スタッフ数、安全面、実施場所の広さ、内容の充実度等から、定員を25名と定め募集しているが、定員を超える応募に対して対応が難しい状況であるため、多くの参加希望者を受け入れられる方法を検討する必要がある。また、国の方策により、当事業と児童クラブとを学校敷地内で実施することを目指す活動計画の策定が補助要項として定められており、今後、スタッフ、学校と協議して取り組む必要がある。

◆ **町民の社会参加機会の拡大**としては、成人式については、新成人で組織する実行委員会の企画運営により実施しているが、実行委員会のメンバーが、もっと主体的に取り組み、事業終了後に充実感や達成感を育めるようなものとなるよう方法を検討する必要がある。

〈分類5〉 歴史・文化の継承

祖先から未来に伝える貴重な遺産である文化財や伝統文化を効果的に保存・継承していくとともに、その利活用の可能性を検討し、積極的な利用を図ります。

【施策】

- ・ 歴史・文化資源の把握・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 3 2
- ・ 歴史・文化資源の効果的な保存・継承・・・・・・・・・・P 3 3
- 総括的評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 3 5

【施策】

◇ 歴史・文化資源の把握

【主な事業】

(1) 町文化財管理事業

点 検	概 要	町所有の文化財の保存を行うとともに、臨時職員2名を雇用し、未整理文化財の整理作業を行い町内の歴史の把握を行う。 開発等に伴う遺跡調査を実施し、遺跡の適切な保存に努める。 文化財関係資料の貸出等に対応し、町内文化財の周知に努める。		
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財整理数 10箱 ・町有文化財環境整備回数 3回 	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財整理数 10箱 ・町有文化財環境整備回数 6回 (草刈・樹木伐採)
評 価	成 果	<p>町文化財の整理等により、町民及び県内外の関係者への五戸町の歴史理解に寄与した。</p> <p>「田植え・田の草取り唄と踊り」を町無形民俗文化財に指定したことにより、当該文化財の保存や周知に寄与した。</p> <p>埋蔵文化財、写真等資料の貸出により五戸町管内の文化財の魅力を発信することができた。</p> <p>開発等に伴う遺跡調査は、該当事案がなかったため実施していない。</p>		
	課 題 等	<p>未整理の文化財が多数あるため、今後も継続的に事業を実施する必要がある。</p> <p>天然記念物（樹木）については、定期的に枝折れ、倒木等の危険がないか確認する必要がある。</p>		

【施策】

◇ 歴史・文化資源の効果的な保存・継承

【主な事業】

(1) 伝統芸能継承活動事業

点検	概要	小学生に対し、伝統芸能に触れる機会をつくとともに、継承活動を進めていくために学校で行う伝承活動について、指導者への謝金や道具の修繕などの支援をする。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・指導回数 65回 ・発表回数 4回 	実績 五戸小学校の児童が和太鼓（五戸太鼓）、神楽、えんぶりの各クラブが、通常は月2回程度、長期休暇等は月4回程度の活動を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・指導回数 63回 ・発表回数 7回
評価	成果	伝統芸能継承活動は、小学生の伝統芸能への理解や後継者育成に寄与した。各種祭りや芸能発表会等に参加することにより、伝統芸能の普及発展に寄与した。	
	課題等	継承活動への参加児童が減少しているため、学校と連携して参加児童数の増加に努める必要がある。	

(2) 県重宝「旧圓子家住宅」管理事業

点検	概要	青森県重宝に指定されている「旧圓子家住宅」の管理及び見学者への公開を行うことにより、文化財保護への理解を深め、五戸町の歴史を後世に伝えていく。 臨時職員1名を雇用して管理を行う。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・管理実施日数 30日 ・見学者数 50人 	実績 <ul style="list-style-type: none"> ・管理実施日数 30日 ・見学者数 23人
評価	成果	旧圓子家住宅の見学者数が計画を下回ったが、町民の郷土史理解の深化に寄与した。 パンフレットを作成し、町内外へ当該文化財を周知することができた。 熱感知器の交換修繕や消防設備点検を実施し、各種法令に基づき保存環境の適正化を推進した。	
	課題等	旧圓子家住宅は、今後修繕等が必要になることが予想されるため、適正な管理が求められる。 入館者数の増加のため、関係機関と協力して周知を図る必要がある。	

〈分類5〉 歴史・文化の継承

(3) 歴史民俗資料保管展示施設設置準備事業

点 検	概 要	旧豊間内小閉校に伴い、校舎等を歴史民俗資料保管展示施設として再整備する事業である。検討委員会を設置し、基本構想を策定する。	
	計 画	・検討委員会 4回 ・視察研修 3回	実 績 ・検討委員会 4回 ・視察研修 3回
評 価	成 果	検討委員会で改修に当たっての基本構想を策定し、平成27年度以降に計画されている実施設計、工事等の方針を示すことができた。	
	課 題 等	管理方法、施設名称などについては、引き続き検討することとしたため、幅広い意見を聞き、決定する必要がある。	

○ 総括的評価・・・歴史・文化の継承

- ◆ **歴史・文化資源の把握**としては、町文化財の整理等により、町民及び県内外の関係者への五戸町の歴史理解に寄与した。また、「田植え・田の草取り唄と踊り」を町無形民俗文化財に指定したことにより、当該文化財の保存や周知に寄与できた。しかし一方では、未整理の文化財が多数あるため、今後も継続的に事業を実施する必要がある。
- ◆ **歴史・文化資源の効果的な保存・継承**としては、小学生に対して行う伝統芸能継承活動は、町民から好感を持って評価されているが、参加児童の減少が見られることから、学校と連携しながら取り組みを行っていく必要がある。また、旧圓子家住宅管理については、継続的な公開により、町民の文化財保護に対する理解と関心の高まりを大きくしていく必要がある。なお、今後修繕等が必要になることが予想されるため、適正な管理が求められる。**歴史民俗資料保管展示施設設置準備事業**は、基本構想を策定し平成27年度以降に計画されている実施設計、工事等の方針を示し、十分な成果を得ることができた。今後も検討委員会を中心に活動を活発化させ、基本構想に基づき、より良い施設の建設に向け推進する必要がある。なお、展示施設が豊間内地区の地域振興に寄与するような仕組み作りについては、地域の方々と十分な話し合いを持つ必要がある。

〈分類6〉 芸術文化の振興

町民が芸術文化に触れる機会を拡大し、興味・関心を育てるとともに、芸術文化に関する情報を必要に応じて得ることができるよう、情報収集と提供の体制づくりを進めます。

また、芸術文化に関する団体や活動を幅広く支援し、町民の自由な自己表現、自己実現の場を提供します。

【施策】

- ・ 芸術文化に親しむ機会の拡大・・・・・・・・・・・・・・・・P37
- ・ 芸術文化活動の支援・・・・・・・・・・・・・・・・P39
- 総括的評価・・・・・・・・・・・・・・・・P40

【施策】

◇ 芸術文化に親しむ機会の拡大

【主な事業】

(1) 産業と文化まつり事業

点 検	概 要	文化活動を行っている団体、個人が、発表の場として、「産業と文化まつり」の文化部門として公民館及び五戸ドームでの作品展示及び公民館でのステージ発表を行う。		
	計 画	・参加団体数 50団体	実 績	出展、出店団体数 37団体 芸能発表団体数 16団体 計参加団体数 53団体
評 価	成 果	文化まつりは、町民の日ごろの活動成果を発表できる貴重な機会であり、町民の文化活動に親しむ機会を提供できた。計画参加数を上回り、町の活動の活性化に繋がった。展示、芸能発表団体ともに新規の参加者が増え新しい刺激となった。		
	課 題 等	文化まつりに使用するパネル、テーブルなど参加者が増加し調整に難航したため、出店団体との綿密な確認をする必要がある。申込みのさらなる増加に向けて、使用する道具の数の把握を徹底していく。 芸能発表団体の控え部屋の場所が分かりにくいという意見があった。団体の名前を印刷した張り紙を貼るなど分かりやすくする必要がある。		

〈分類6〉 芸術文化の振興

(2) 町民文化講演会事業

点 検	概要	町立公民館で講演会や演奏会などを実施することで、町民が芸術文化の関心を高めるとともに豊かな感性を育む機会を提供する。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・自衛隊音楽隊音楽会 ・サマーコンサート 弦楽合奏の夕べ ・あべさところハッピーポケットコンサート ・スプリングコンサート ターンバック他 <p>入場者総数 1, 200人</p>	実績 <ul style="list-style-type: none"> ・あべさところハッピーポケットコンサート (7月3日) 200人 ・サマーコンサート (8月9日) 100人 ・スプリングコンサート (3月1日) 350人
評 価	成果	<p>「あべさところハッピーポケットコンサート」では200人ほどの町民が来場コンサートの内容に感激して帰る方も多く、再度あべさところさんのコンサートを要望する町民も多かった。</p> <p>ターンバックによる「スプリングコンサート」も年々入場者も増え、町民の関心も高くなってきており、芸術文化の関心を高める機会を提供できた。</p>	
	課題等	<p>町民からは、コンサートや著名人の講演の要望等があるが、少ない予算内でできるだけ多くの町民が楽しめるもの等の実施を求められ難しい状況である。機会をとらえアンケートなどによる要望を把握し、検討する必要がある。</p> <p>今年度も自衛隊音楽隊演奏会による演奏会を要望していたが自衛隊の都合により開催できなかったが自衛隊の演奏会を楽しみにしている町民も多く、継続して要望していきたい。</p>	

【施策】

◇ 芸術文化活動の支援

【主な事業】

(1) 町文化協会支援事業

点 検	概 要	町文化協会の事務局を町立公民館で担当して、協会運営と文化団体の事業の推進を図るとともに、町の芸術文化団体相互の交流などの活動を支援するために、町文化協会へ町補助金を交付する。		
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・文化協会加入団体数 50団体 ・産業と文化祭り参加数 20団体・個人 ・芸能発表会参加数 20団体・個人 ・町補助金の交付 	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">実 績</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・文化協会加入団体数 41団体 ・産業と文化祭り参加数 13団体 ・芸能発表会参加数 10団体 ・町補助金を交付 </td> </tr> </table>	実 績
実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・文化協会加入団体数 41団体 ・産業と文化祭り参加数 13団体 ・芸能発表会参加数 10団体 ・町補助金を交付 			
評 価	成 果	補助金の交付及び事務局を担当することで、視察研修の実施や発表会への参加などができ、町の文化団体組織の活性化と芸術文化が図られた。		
	課 題 等	支援は、五戸町文化協会を対象とした事業であるが、文化協会に加入していないで文化・芸術活動をしている町民もいることから、町の芸術文化の振興のためには文化協会以外の活動に対するアプローチも検討する必要がある。		

○ 総括的評価・・・・・・・・芸術文化の振興

◆ 芸術文化に親しむ機会の拡大及び芸術文化活動の支援としては、文化団体の活動発表の場の提供やコンサートと文化協会への補助金を交付しているが、活動が現状維持にとどまっている団体が多く、また文化協会に加入していないで文化・芸術活動をしている町民もいることから、町の芸術文化の振興のためには、文化協会以外の活動に対してのアプローチと支援も検討する必要がある。